

第1回君津市本庁舎再整備のあり方検討委員会会議概要

日 時：令和元年12月3日（火）

午前9時～午前10時32分

場 所：君津市役所5階大会議室

出席者

【委員】

柳澤委員、錦織委員、鈴木委員、丸委員、和田委員、長田委員、占部委員、齋藤委員、江尻副課長（川野邊委員の代理）

以上9名

（※林委員・川野邊委員は欠席）

【事務局】

- ・高野副課長、本多主任主事、菅井主事
- ・本庁舎再整備のあり方検討支援業務委託先
パシフィックコンサルタンツ株式会社 3名

1 開 会

本委員会は、君津市本庁舎再整備のあり方検討委員会設置要綱に基づき開催される委員会であり、同要綱第5条第2項に「会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない」となっております。本委員会の定数は、10名となっており、当日の出席者は9名だったため、会議が成立しました。

2 委員長、副委員長の選出

委員長として千葉大学大学院工学研究院の柳澤要委員、副委員長として錦織委員を選出しました。

3 議 事

(1) これまでの検討経緯について

平成28年度の君津市本庁舎再整備検討委員会では、5つの整備案について検討が行われ、最終的に本庁舎は一般官庁施設として改修し、防災拠点は別棟で新設することが結論としてまとめられました。しかしながら、28年度の検討委員会は、市職員のみで構成されたものであり、検討した内容や結果については、その妥当性や評価の客観性について外部意見を踏まえて検証する必要があること、また、専門的な技術・手法・情報・経験が不足しているため、専門家による詳細な検証を行った上で、判断する必要があることが報告書に申し添えられました。よって本委員会では、外部有識者として千葉大学大学院の柳澤委員長と林委員をお迎えするとともに、庁舎再整備について高度な知識と豊富な経験を要する民間事業者であるパシフィックコンサルタンツ株式会社にも出席してもらい、総合的な視点をもって改めて5つの案について議論するものとします。(事務局)

今年度の検討委員会では、庁舎再整備案についてイニシャルコストだけでなくランニングコスト等も考慮に入れてトータルコストを比較しながら議論を行うこととします。(柳澤委員長)

(2) 本庁舎の現状と課題について

平成18年度に実施した本庁舎耐震診断において、現庁舎は建物全体のG I s値が0.98であり、一般官庁施設としての耐震性能は概ね備えていますが、防災拠点としての耐震性は備えていないことが示されています。令和元年11月に劣化状況の進行に関する目視調査を実施しましたが、平成18年度本庁舎耐震診断以降、本庁舎の耐震性を下げるような劣化は確認されませんでした。(事務局)

直ちに対応すべき劣化状況としては、雨漏り対策が挙げられます。窓の外部建具及び室内配管等の劣化が原因と考えられ、早急な対応が求められます。また、台風被害を受けた南側玄関の軒天井等につきましても改修が

必要となっています。(事務局)

本庁舎の改修について、今後の整備方針と関連付けて検討すべきであり、無駄のない投資を目指すべきです。(柳澤委員長)

必要な改修工事については、改修に要する費用を整理し、優先順位をつけて対応していきたいと考えています。雨漏り対策については、直接的な被害が想定されるため、優先的に行ってきたいです。(事務局)

資料の中で、本庁舎の課題が記載されていますが、これは事務局が考えて整理したものです。今後、委員の方々よりご意見をいただき、まとめていきたいと考えています。(事務局)

本庁舎のセキュリティ対策が必要であると考えます。他市では、閉庁日に展示等で庁舎を開放する際、執務空間等に侵入できない対応をしている事例があります。(錦織副委員長)

本庁舎のセキュリティを考えることは重要であり、市民に開放しているエリアから完全に外部と遮断されているエリアまで、段階的にセキュリティレベルを設定したゾーニングを設計することが大切です。(柳澤委員長)

(3) 本庁舎の整備の必要性について

少子高齢化等の市が抱える課題を踏まえた本庁舎整備が必要です。これからの君津市にとって必要な施設規模を検討するとともに、庁舎機能の集約・分散・複合化や庁舎整備に関する官民連携手法の可能性などを検討し、整備方針を議論するべきです。(柳澤委員長)

市の人口だけを見ても、減築や規模縮小みたいな話になりがちですが、本庁舎竣工時より、職員の業務量なども時代とともに大きく変化しています。本庁舎の規模については、何をもって適正とするか判断が難しいところがあります。(鈴木委員)

本庁舎の規模をどう考えるかという問題は、本庁舎や支所との関係性も関わってきます。君津市は、西の湾岸のほうに人口やインフラが集まっており、逆に東の奥のほうはそうではありません。市民サービスのあり方が時代とともに変わっていく中で、市全体の行政サービスをどうしていくか

を考える必要があります。(柳澤委員長)

ユニバーサルデザインを考慮するとともに、窓口のワンストップサービス実現など市民サービスの向上も重要です。また、庁舎内動線計画を整理することで、効率的な職務を実現できる施設計画が求められます。(丸委員)

市民の利便性を高めるための総合窓口の導入検討や職員のワークスペースを改善することによる働き方改革も本庁舎再整備を考える上で必要な視点です。(柳澤委員長)

他市においては、省エネに関して本庁舎と周辺公共施設の連携による地域エネルギー共有システムの導入可能性の検討を行った事例があります。君津市においても、導入の可能性を検討してみることもよいと思います。

(柳澤委員長)

住民票を取ったりするだけでなく、市民が立ち寄りやすい庁舎となることが必要と考えます。(錦織副委員長)

他市でアンケートを実施すると、市民の来庁頻度はかなり低いことが多いです。普段から庁舎に立ち寄ってもらうことで、災害時の情報発信が効果を発揮すると思います。例えば、隣接する図書館と連携することで、庁舎に市民が立ち寄ってくれるような工夫があるとよいと考えます。(柳澤委員長)

(4) 概略スケジュールについて

本庁舎再整備の方針について、十分に議論を行いたいと考えています。一方で、スピード感を持った検討が必要であることも認識しています。来年度以降、本庁舎再整備に関して市民の意見を取り入れて進めていきたいと思っています。(事務局)

(5) その他

各委員より、各職場からの視点による本庁舎整備に対する考え方を述べていただきました。

市民ニーズや時代の要請にあった庁舎整備が必要です。総合的な視点をもって検討を進めていきたいです。(和田委員)

現状、本庁舎周辺は官庁街として広く市民の方々に認識されています。本庁舎を移転する場合、様々なデメリットがあるかもしれませんが、まちづくりなどの面から見ると1つの起爆剤というところもありますのでそういったものを踏まえて検討していかなければならないと思います。(長田委員)

防災拠点をどのように整備するかが、本庁舎再整備の根幹になると思います。現本庁舎内部に防災拠点を有する現状のままでは、非常に不安を感じます。(占部委員)

現本庁舎は防災拠点としての耐震性を備えていません。現本庁舎と別棟で防災拠点を整備してほしいと思います。そこに市民が来庁する機能を合わせて整備することで、市民の安全性の確保、市民が来庁し易い庁舎を目指せば良いと考えます。(齋藤委員)

現在の再整備のスケジュールを踏まえると、整備が完了するまでに10年程度の時間を要すると考えられます。素早く変化する時代の要請に対応し、今やっていることが無駄にならないようにしていきたいです。(川野邊委員代理江尻副課長)

改修であっても建て替えであっても、ライフサイクルコストを考慮した上で市民サービスの向上が実現できる一番良い方針を選定していきたいです。(丸委員)

人が集う施設として複合化の話がありましたが、市役所にどのような施設を入れるかではなく、どのような施設に市役所が入るかという視点もあります。それがまちづくりや本市の魅力の創出につながると思います。(鈴木委員)

本庁舎の組織のあり方や行政センターとの業務分担などのソフト面の視点をもって再整備の方針を検討することも重要です。また、今後いつ来るかわからない自然災害に対しても対応できる庁舎整備が必要です。(錦織副委員長)

昨今、公共施設の床面積削減が語られますが、床面積を減らしてコストカットすることが必ずしも市民サービスの改善につながるとも限りません。市民が親しみを持てる庁舎を整備することで、市民サービスの質を高めるという考え方もあります。また、費用は減らないけれども、収益が上がるような施設にすることで、全体としてお金がかからなくするという方法もあります。庁舎整備であると範囲が限定的になるかもしれませんが、官民連携手法の検討も有益であり、新たな公共施設を整備するためには、工夫が必要です。防災拠点に関しては、情報発信機能が重要になりますが、そういった機能が災害時に発揮されるには、平時にも市民にとって情報発信の場になっている必要があります。君津市においては、本庁舎再整備の方針に関して今後計画的に検討を進めるスケジュールであるため、今までの常識にとらわれない庁舎整備手法の検討が可能と考えます。(柳澤委員長)

4 閉 会